

第2回牧野植物園磨き上げ整備基本構想検討委員会議事録

日時：平成28年9月23日（金）13:00～16:00

場所：高知県立牧野植物園 本館 映像ホール

出席者：[委員] 邑田委員長、受田副委員長、沢登副委員長、井上委員、

海老塚委員、川崎委員、北村委員、杉田委員、

竹内委員、中島委員、村上委員、安田委員（12名）

[オブザーバー] 高知市観光振興課、高知県公園下水道課、高知県文化財課（3名）

[指定管理者] 公益財団法人高知県牧野記念財団（8名）

[事務局] 高知県林業振興・環境部長、高知県林業振興・環境部 副部長（総括）、

環境共生課（8名）

- 1 開会
- 2 高知県林業振興・環境部長あいさつ
- 3 委員の紹介
- 4 （報告事項）第1回目検討委員会でのご意見について

（事務局：環境共生課長）

①過去の植物園リニューアル時の内容の確認

過去に2回整備を行っている。

第1期構想「コンセプト「牧野富太郎博士を検証し、長期的な展望、地球環境時代をリードする牧野植物文化研究交流圏の形成」をもとに5つの基本方針の元に整備が進められた。積み残し、次期整備の持ち越した項目は、展示温室の整備、植栽園地、道路駐車場(第2駐車場、歩道)、寒蘭センターの整備、栽培温室バックヤードの設置がある。

第2期構想は基本的に第1期整備の積み残しの実施を行う。

「研究型植物園の機能強化、環境資源としての充実」をコンセプトに進められた。

第1期、第2期整備計画で未着手の項目は、植栽園地(食用区)(未利用地自然林)、道路駐車場(バリアフリー)(循環連結道路)、観光資源の充実(体験教室)(標本)(植物ガイド)(お馬道の活用)、今季の整備計画で積み残した項目は総合的に考えていきたい。東側の自然林は数百羽のサギのコロニーがあるので慎重に検討したい。長江圃場の高台移転の候補地とされているので、総合的に検討していきたい。

②検討委員会の名称変更

磨き上げでは現状から規模が変わらない、今もっている価値の最大化を図ることが必要なのではないか、との意見への回答について、牧野博士のお宝の植物画は芸術的価値が高く、6万点もの蔵書、財団が培ってきた実績と経験を生かし、持っているポテンシャルを最大限に引き出すとの意味で、これまでの「磨き上げ整備基本構想」の名称でご理解いただきたい。

(A 委員)

名称に関してはこだわらないが、大きな玉に仕上げて世界に誇れる牧野植物園として(の目的も含めて)というような繋がりを明確にしたほうがよいのではないか。議論内容の明確化を名称に反映させる。

(委員長)

懸念事項は現状が否定されること。

<議題>

(1) 基本コンセプト・整備案について

(事務局)

整備の考え方は持っている価値の最大化、観光・教育を通じた連絡機能の連携、研究資料の有効活用による世界的な植物園を目指す。さらに、本物との出会い、学ぶ場として次世代の牧野博士を育成すること、夜間開園の充実、植物園らしくない魅力の情報発信、植物への興味のない人への仕掛けづくり、最新の映像技術の利用。

園地整備はゆったりとした広場、植物を体験出来るコーナー、バリアフリー化などの来園者への優しい施設への整備化。

周辺設備は入り口の狭隘部分、駐車場への渋滞・不足への対策、南海地震対策(避難所の整備、長江圃場の浸水問題)、インバウンド対策(漢方文化のある国をターゲットに)ホスピタリティ・おもてなし、これらの標準化。

その他項目では修学旅行生の誘致、研究者の滞在機能としての宿泊施設の整備、長江圃場を駐車場にした場合の移動手段としてのロープウェイの検討、植物園の地域貢献としての役割。

モニター調査での意見

教育関係者→子供向けの施設。体験・教育の場

子育て関係者→子供がのびのび出来る遊び・学び・体験出来るエリア、幼稚園・保育園・学校とつながりのある植物園

外国人・語学ボランティア→多言語化、中継施設、歴史文化、中華圏の方への

漢方の魅力紹介

福祉関係→高齢者が行きたくなるような施設

自然・環境関係→研究機関の公開

(牧野記念財団)

第1回目の委員会での委員長の発言を受けての以前の整備計画からもう一段回植物園がグレードアップするために必要だと考えていることは、50周年記念庭園の開園に伴いなくなった家族で楽しめる広場の整備、観光振興を兼ねたフラワーイベントを開催出来る専用の空間。常設の夜間照明(イルミネーションを含めた)。子供が実物の植物に五感で触れ合える広場の設置。研究者・企業との共同活動・研究内容が、入園者にわかる施設。あるいは、子どもたちが研究を体験できるスペース。長江圃場の移転。研究・教育・美しい実物の植物の展示、景観によって、高知の環境産業に貢献したいと考えている。

(事務局)

基本コンセプトは、牧野植物園の強み・弱みの洗い出し、弱みの補い。魅力・価値の最大化、観光振興への貢献、最新展示機器の導入による、劣化を防ぎつつ一般公開(8K)、牧野博士の関連施設との交流、収納スペースの拡張、世界レベルの植物園との交流を図る。地形を生かし、水系庭園、竹林寺の五重塔、四国山脈による借景による雄大な展望。情報発信、夜の植物園の拡張、ビューポイントの創出、温室への照明設備の設置。天候・季節に左右されないプログラムの追加、本館と展示館をショートカットで結ぶコースの設置。研究型植物園として植物の生態のエキスパートとして、世界の大学、企業とのネットワーク強化、共同研究。薬用植物のガイドコース、研究施設のオープンラボ化、五台山公園・竹林寺との連携による周遊観光コースの設置。夜景としての植物園の観光化、駐車場の拡張、狭隘道路の拡張、周遊道路の新設。

研究・産業化への貢献は資源を生かす ミャンマーからの標本、サンプル、バックヤードを含む植物、研究資料の公開。外部との共同研究、オープンラボ化による魅力の最大化。

浸水対策はバックヤードの移転、研究施設、標本保管施設のスペース確保。

研究の成果を生かすには薬用植物、県内の植物の調査実績の公開。

教育への貢献はお宝(本物)を生かすには、牧野博士のお宝魅力、価値をさらに磨く。教育プログラムの充実。(雨の日ならではのプログラム、オープンラボでのプログラム、高齢者向けのプログラム、食体験など)教育プログラム指導者の育成、バックヤードの移転に伴うギャラリー機能の充実化(長江圃場内部の一般公開化)、標本の製作公開 子供の学習プログラム課外授業の受け入れや子供たちが園内の植物をちぎったり、食べたりすることが出来るエリアの設置、ファミリー園の新設がある。

(A 委員)

観光振興への貢献の具体的なイメージはどういったものか。

(事務局)

平成 27 年度は 14 万 3,000 人入場している。フラワーフェスティバルを取りやめた結果であると考えられる。入場者の 25%は県外の方、子どもたちは全体の 1 万 6,000 人、高齢者は 4 万人。65%の入園者が有料の入園者。20 万人の入場者があった時は 8,000 万円の収入があった。目標は 20 万人以上の入園者を見込み、30 万人にまで持っていきたい。ターゲットは植物の研究者、一般の植物好きの方、子どもたち、高齢者、観光客、出来れば研究教育すべてのラインをターゲットにしたい。

(事務局)

今回の磨き上げは「研究」「教育・普及」「憩いの場」の三本柱を元に作成する。牧野植物園の魅力・価値を多くの方に知ってもらい、感じていただきたい。来園者の数値目標よりも(収入よりも)多くの方に来ていただきたい。今はいろんな方面からの意見を求めている。

(B 委員)

どのエリアがどの年代をターゲットにしているのか。スイスはリピーターを増やすことで観光客を増やしている。属性をはっきりさせた方がよい。

キャッチコピーについて「世界に誇れる牧野植物園にする」とあるが、英語でキャッチーなコンセプトを表現できないと、世界に訴える力はない。日本語と英語のセットで考えて欲しい。

牧野植物園が観光振興に貢献するのは目的が違っている。観光振興の波及効果に貢献するのが一般的ではないか。三本柱を貢献でくくるのではなく、拠点でくくった方がいいのではないかと思う。観光は誘客になるとするならば、都市計画用語であるシビックプライド(civic pride 都市に対する誇りや愛着)の拠点とするのが、ジャストアイデアだと思う。

二つ目は研究・産業化のイノベーションの拠点や知識の拠点。

三つ目は人材育成の拠点とくくると、我々は何をしたいのか。何が目的なのが明確になる。

県の上げた項目は二つ目の研究・産業化に整理される。過去ばかり見るのではなく、今・前を向いていかなくてはならない。この整備計画は将来の牧野植物園のあるべき姿を色あせず今の段階で議論できなければならない。

(委員長)

非常に大きな宿題なので、次の委員会までにまとめて次回この場で議論というのは難しい。B 委員に事務局が修正したものをご相談をさせていただき見ていただけるとありがたい。

(B 委員)

侃々諤々意見が飛び交うだろうが、その結果委員会の方向性が明確になったところでお役に立てるところがあればと思っている。

(委員長)

基本理念・コンセプトを具体化し絞っていききたい。コンセプトは植物園を磨き上げるイメージのことなのか、それとも牧野植物園の憲法のように常にここに戻るものなのか、絞って決めた方が良い。意見が出る場所なので、それほど議論するところではない。そもそも、最大限に植物園を磨き上げる以上に必要な理念があるかどうか、提案をしていただきたい。

(C 委員)

植物の勉強が出来る植物園ならどこにでもあるが、ここは牧野富太郎が大事だと考えている。植物・自然を楽しむのもよいが、根底にある牧野富太郎の志が何だったのかを具体化している植物園だ、というような学び方もあると思う。牧野富太郎の志があれば子供たちに伝えていただきたいし、それを大事にしながら我々教育者は植物園を利活用したい。

(牧野記念財団)

牧野博士の功績は、日本の植物分類学をグローバルスタンダードにした。高知の出身で小学校中退でありながら、自らが積極的に学ぶことによって世界水準に引き上げたことを高知の人はずっと知るべきだ。

二点目は多くの植物愛好家を育てたこと。多くの人々を採集に連れて行き植物の愛で方をボランティア活動で広めた。その方々が日本の植物学を支えている。

(牧野記念財団)

私の考える牧野博士の功績は、独立独歩で目標を完成させたことは植物学や芸術だけでなく、すべての人間に伝わる重要な部分だと考えている。14歳で当時の日本の学校制度を否定し、学問とは与えられるものではなく自ら学んでいくものだという生涯を渡って完遂した。学問とは自分から疑問を持って、行動し、わからないことがあれば師に教えるを乞う。そのように子供たちを向かわせるのが本当の教育だと思う。牧野博士ほど楽しい晩年を過ごした人はいないと思う。「植物を好きになったら身心共に健康になる。」植物に会いに山や海に出かけることが精神鍛錬になり、花の美しさに触れることが情操的な部分も養われる。牧野博士の生き方全体を伝えることが、キャッチコピーになると考えている。

(D 委員)

今日の会議はすごく重要だと考えている。一番明確なのは、「世界に誇れる」という部分だが、これは何を指しているのかが難しい。広告用語の USP(unique selling proposition 独自の売りあるいは独自の売りの提案)唯一無二の良さがあって誇れる、シビックプライド、イノベーション、人材育成の三点があり、納税者(県民)が税金を使われてもよいと考えるべきだと思う。

戦略ターゲットをどこに定めた入場者数目標なのかは特殊な問題。産業や人材育成の件は場合によっては収入につながる。このこと全体を投資と考えるならば、かける時間でどれだけ効率よくリターンを回収できるか。牧野植物園の秘宝や、それにかかわっている職員の方々も魅力的で唯一無二だと言える。県外県内の他のテーマパークや植物園と比べて、USP や投資とリターンがどれだけ完璧に差別化出来るかが重要。

私のいる広告業界でもこの規模をまとめるには10日ほどかかる。優秀な方にお任せして案を出していただくのも手だと思う。

(E 委員)

世界に誇れる植物園とあるが、他の外国の植物園も各国の未開の地に入って研究しているので、牧野植物園のミャンマーの研究が唯一無二で世界に誇れるとは言えないのではないか。今、栽培してる植物でも唯一無二とは言えないのではないか。牧野植物園が一番のものがあるかと言われればきついのではないか。どこが誇れるかといえば、牧野富太郎博士ではないか。魅力的な人物が集めた標本は唯一無二のものだと思う。

(F 委員)

牧野植物園という個人の名を冠した植物園は他にないのでは。

(委員長)

牧野博士から得られる何かはもっと出した方がよい。そこがイノベーションや教育に繋がっていく。植物学者としての牧野富太郎では広がらない。

(牧野記念財団)

2年後に牧野富太郎のコンペティションを開く。第二の牧野富太郎の発掘となれば、まず牧野富太郎自身を語られなければならない。多面的な要素で。

(D 委員)

伝達をするとき、3秒で伝えるというように、牧野博士ありきで USP の主軸を3秒か5秒で伝えるかに一番苦勞すると思う。牧野博士は命の秘密を考え続けた人とするならば、命の秘密と体験することがこの植物園では出来るなど、牧野博士の存在価値を伝える手法が欲しいと立場上思ってしまう。3秒5秒を伝えることが今の時代では重要。伝える手段

はものすごく考えた方がいい。

(委員長)

植物園であって、博物館であって、標本も持ってて、資料も持っている植物園は世界にそうはないので、世界に誇れると思う。個性的ではないかもしれないが、植物園が果たすべき役割を一通り持っている。外側からどのように見られたいかも重要。内外、両側から考えることが重要。将来、整備計画が持ち上がり、昔の方針で世界で最も洗練された植物園を目指してきたということは現実性がある。強いアピールはないかもしれないが、基本的なところはこれでいって、英語でも伝わるであったりというようなことを考えたかどうかと思っている。牧野博士の事を考えるとここでの議論では決まらない。それは皆さんに理解してもらえてると思っている。

(G 委員)

県の基本構想は総花的。何のトップになりたいのか。入場者を増やすことも大切だが、牧野富太郎を顕彰するためには何が必要なのかというところから入らなければならないのではないか。前回の委員会での H 委員の意見の「命」、植物は命は根源である、というような事が感じられる植物園にするのが大事なのではないか。私の知人から、牧野植物園はバラの原種があり、素晴らしいと聞いた。原種が在るだけでなく、どのようなものを説明してくれる人がいて初めて素晴らしいと感じられる。

(委員長)

議論が多岐に渡っているので、他にもコメントがあればどんどん出して欲しい。

(H 委員)

参拝者にお遍路が楽しいか尋ねたら、鳥の声が聞こえ、名前は分からないが道端には小さな花が咲いてる。これらが目に入るだけでこころが浮き立つようだといっていた。お遍路では心のチャンネルが変わるから今まで見えなかったものが見えるのではないかと思う。植物園は本来そういった場所ではないか。植物園は今の時代であっても不変の場所、聖地や安心感やすらぎのある場所で最後には戻ってくるような場所であれば、世界に発信できるものになるのではないか。

(I 委員)

市民の憩いの場で、単純に安らげる場がいいと思う。専門的な知識がなくても安らげる場であればいいのではないか。難しくなくもっと単純でよいのではないか。

(J 委員)

世界という言葉に違和感を感じる。話が大きくなっている。まずは高知県民に愛されて、日本があって世界がある。虫が好きな子供にフェアブルを紹介する場面は出くわすが、草花が好きな子供(特に女の子)に牧野博士を紹介するというのはまず聞かない。まずは、高知県民にも牧野博士を知ってもらい、それから世界ではないか。子供たちの夢が広がるような大人たちは昔を思い出していきいき出来るような場になればいいと思う。

(E 委員)

牧野博士は植物が大好きで植物のすべてを知りたかった人。知ったことを他の人々にも伝えたかった人、それが植物の愛好家を増やした。牧野博士が愛した植物を見れる場所というのも一つの魅力である。国内外から観光客がいっぱい来てくれて牧野博士を知ってもらえたらいい。

(F 委員)

牧野富太郎は高知県民にとって誇りであり、シビックプライドである。

(休憩)

(委員長)

この委員会の目的は、高知県知事に予算を出してもらうこと。知事としては、世界に誇れる植物園にするために多くの予算という説明がいるはずである。どうアピール出来るのかをこの会で多く出して予算を出す理由づけにしたい。

整備項目について県の上げたものの整理をしたい。これ以外にすべき点があれば意見して欲しい。挙げられている項目をどの枠組みにするのかは、再検討が必要。しなくていい項目、すべきことを挙げて欲しい。

(A 委員)

観光振興に関する話で、すでにポテンシャルの高い植物園ではあると思うので、情報発信をすることで 400 万人の来ている人達のチェックアウト後の時間を調べることですき間時間に植物園に来てもらい来園者数を増やすことは難しくない、すぐに 20 万人、30 万人呼べるだろう。いい植物園にする為には、経営的な土台もよくする必要があるのではないかと思う。知事が議会で説明するときにも、新しい投資に対するイニシャルコストを考え赤字を見込んでの計画であるという説明がいるのではないか。教育や研究、憩いの場は非常に価値が高いので県税の投資額があり、今までよりどう変わるのかを作っていく必要性がある。高齢者や幼児は入園料が低いかもしれないが、観光で来る人達は必ず入園料を払う。(じゃらんにおける調査で)旅先での行動は 7 割の人が現地で情報を得て決める。チェックアウト後に行動を決めているので、一番のタッチポイントは宿泊施設、観光案内所、飲食

店になる。タッチポイントの人たちにも来てもらって昔の植物園との違いを見てもらい誇りをもってもらうことで、積極的な連携が図れ大きなコストをかけずに、来園者数を増やすのは今でも出来ること。単価を上げるのであれば、来てくれた人々の付帯の単価をどう上げるのか。園内のレストランは魅力的、すごくおいしいと思う。地産の食材も入っており、薬膳の考えもある。女性に凄くいい人気のある場所になると思う。高知に来た人が空港から帰る前の時間が空いてるのではないか。高知駅から植物園まで 300 円のバスがあるが、何度も高知に来ているのに知らなかった。こういったこともきちんと発信していかなければならない。そのような努力をせずに次なる投資を求めるのは、私であればやるべきことをまずしなければならぬのではないかと思う。

(F 委員)

7割の人が現地で情報を得て決めているという意見について、大きなクルーズ船が高知に寄港している。その船内で英語のPRの映像を流してはどうか。付帯の売り上げについて、植物園のレストランなのでサラダバーのようなものが女性にアピールできる。これがリターンに繋がり、付帯のお土産にもなる。

VRについて、カンフル剤的な発想としてポケモンGOの利用はどうか、進入禁止の場にポケモン目当てで行く事件があるが植物園内なら安全ではないか。珍しいポケモンを置いってもらうのは費用がかかるだろうが、ポケモン目当てに2万人は見込めるのではないか。

独自のソフトやアプリとして、ドクター牧野が案内するキャラクター探しなど。バイカオオレンが咲いた時にそのキャラクターが現れるなどのゲームで子供たちや大人の興味を引いてはどうか。

(C 委員)

教育の観点から、子どもたちの利用が1万6,000人で少ない。学校教育で安定的に利用出来ればリピーターになる。子供たちが自ら考える、学ぶのがこれからの教育になる。ipadのようなもので植物の写真を撮れば種類がわかるような機器のようなものが、子どもたち一人に一つあるいは二人で一つなどで与えられて、自ら学び後で発表してもらえるような学習の方法もある。他の委員から、牧野富太郎を学校で教えてるのかと質問されたが、教えていない。牧野博士の基本情報すらない。教科書にもものっていない。もしお金があれば、学校に冊子のようなもので牧野博士の普及を図ってもらい、牧野植物園に行く仕組みを作ってほしい。そのときにバス代の補助などがあれば一層訪れるだろうし、中身が良ければリピーターになる。リピーターになるということは、どの学年かの年内行事になり、学習内容に定着する。教員が移動で居なくなったとしても、自動的に学校の年内計画の中に入ってくる。まずは勉強する道具を学校に与えてほしい、その次に補助金を与えて、学校から子供たちに情報発信をしてもらうような仕組みがあれば、参加する学校が出てくるのではないか。この仕組みができれば、子どもたちが育ち植物好きな大人になるのではないか。

子供を大切にする植物園になってほしい。

(F 委員)

以前、子どもたちに尊敬する偉人のアンケートをとったら、1位は坂本龍馬で、唯一佐川町だけが、牧野富太郎が1位だった。これは教育の成果だと思う。

(I 委員)

高齢者の利用は無料だが、高齢者施設のイベントとしての団体利用であれば、介助の為にスタッフが何人か付き添いでくる。このスタッフからは入場料が取れる。高齢者施設は毎月のイベントでどこに行くか考えているのでこのような利用者を増やしてはどうか。

(E 委員)

牧野博士の展示内容は大人にはすごく面白いが、小学生に伝えるのはどうか。子供にも分かってもらえるような展示内容が必要。

(牧野記念財団)

他の施設の場合、寺田寅彦記念館だが展示は基本は大人向けに作っているが、学習シートを常に置いておき、かみ砕いた内容を書いている。経験としては、夏休みに子供牧野富太郎展を開催している、子ども向けだが、大人にも好評である。漫画のキャラクターを使いわかりやすい内容で常設展示をかみ砕いて説明している、子どもの多い夏休みや冬休みに実施することは出来る。

(事務局：林業振興・環境部長)

ガイド、解説者の設置を重点的に行う必要がある。牧野博士の宝や植物は見るだけで感動できるが、秘められた内容まで知ることが出来れば、さらに感動できる。解説者、案内者の育成の必要がある。常にとはいかないので時間を決めて説明を行うなど工夫は必要。

(D 委員)

この会が何の為にあるのか。いろんな分野の専門家がこの委員会に任命されているが知事の思いはどうなのか。

(事務局：林業振興・環境部長)

知事は6月の県議会において、牧野植物園が持っているポテンシャルを最大限に引き出すように整備していきたい、と申している。予算を気にせず、牧野植物園にいろんな世界の方が多く集まってもらいたい。これまでの三本柱をしっかりと磨き上げて、それぞれの項目が関連しながら磨き上げてもらいたい。園地全体は18haあるが6haしか使われてない

のはなぜかと疑問を持ったり、何のためにこれだけの敷地を確保しているのかを再度確認したい、と申している。

(I 委員)

このような事は目に見えるまで時間がかかるが、今回の件は即効性を求められているのか。

(F 委員)

牧野の磨き上げ委員会でなにを議論してるのか聞かれることがあった時にロープウェイの復活の話に一番反応していた。

ロープウェイがあった時、五台山に来ることよりも子供たちはロープウェイ乗ることが楽しみだった。駐車場の対策にもなり、エコなものでもあり、即効性もあるが、問題は高知県民は飽きやすいこと。廃止になったということは以前は失敗してるということだから、運営コストや建設コストラーニングコストに似合うのか次回までに試算しなくてはならない。バスでなくても、土佐電の電車で繋げてもよいのではないか。宿坊の復活も望む。どのような施設にするのか。何人宿泊出来るようにするか。いろいろあるが、敷地はいっぱいありそうだ。費用の試算をしてもらった上で議論したい。旅行商品を取り扱っている委員もいるので、どのような施設にしたらいいかアイデアをいただきたい。植物園に泊まれるのはすごい素敵なことだと思う。植物園で一日過ごす、植物の表情が見れることが出来るのは贅沢だ。

(牧野記念財団)

現在の営業時間は9時から17時まで。夜の植物園は職員の労働条件にもかかわってくる。

(H 委員)

牧野博士だけではなく五台山全体での磨き上げ整備を行ってほしい。宿坊があれば、五台山だけで一日過ごすことが出来る。ロープウェイもいい案だと思うが、入り口の狭隘を早く解消してほしい。

(委員長)

漢方薬局の設置、やるのであれば本格的にしたほうがよい。

(E 委員)

企画展はどのようなものをされてるのか。

(牧野記念財団)

昨年スミレ・タンポポ展を開催した。高知県のボランティアと一緒にいった調査で、好評だった。

来年はミャンマーでの研究成果を発信するミャンマー展を開催する。実用段階ではないが植物の成分が何かの菌に対して殺菌作用があるなどがわかった途中段階を時々見せたりする。そのようなものを見せる展示スペースを作らないといけない。

(F 委員)

香水のような親しみやすいものは。

(牧野記念財団)

例えば土佐寒蘭の香り(非常に香りがいい)を再現した工芸品の開発をいくつかしている。公開出来る部分と出来ない部分があるが、出来る部分はしていきたい。

ハーブ園を作って、来園者が採取した植物のエキスを蒸留して自家製の香り、香油を作るような体験型の施設も出来たらいいと考えている。

(委員長)

それでは、時間になりましたので、事務局に進行を戻す。

(事務局)

事務局としては次回までにしっかりと取りまとめを行いたい。

ここで、牧野記念財団から、これから開催されるイベントのご案内があります。

(牧野記念財団)

イベントの告知「牧野富太郎の植物図」「世界寒蘭展」他

(事務局)

今回の検討委員会は11月で調整を行っている。日時、検討事項は後日お知らせする。委員会のコンセプトはD委員にアイデアをいただいて第三回の委員会までに皆さんに示して意見を伺いたい。

最後に林業振興・環境部の副部長からご挨拶を申し上げます。

(事務局：林業振興・環境部 副部長(総括))

知事からは、ちまちまやらずにドンとやって欲しいとメッセージをもらっているが、投資とリターン効果にポイントを置いている。次回は全体のコンセプトと11月は来年度の予算に向けて出来るものから予算計上するくらいのスピード感で取り組んでいく。引き続きご助言をいただけるようお願いいたします。

(D 委員)

(コンセプトについて) 私だけがやるのはよくない。私の意見に偏重するようなものを出すのはよくない気がする。県でコントロールするのが健全ではないか。

(委員長)

委員の方々が了解であれば、メールアドレスの一覧を作り情報の共有を行ってはどうか。

(事務局)

早急に検討します。ご意見を賜る仕組み、コンセプトについて協議します。

5 閉会